

お腹の傷を0に!女性のための女性医師による治療

2024年8月5日 婦人科領域

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

横浜労災病院 婦人科 部長の大井 由佳(おおい ゆか)です。

本日は、昨年度に導入したお腹を切らない低侵襲手術(vNOTES)についてご紹介いたします。

また、当院は女性医師が多いのが特徴です。ジェンダーフリーの時代ではありますが、産婦人科疾患に対し女性医師を希望する患者さんの心情は十分理解可能なものであり、当院としても誠実に対応しています。



大井 由佳

婦人科 部長

vNOTES(vaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery)

手術が必要だと判断したけれども、患者さんは仕事や家庭の事情でためらっているなど、紹介のタイミングでお困りのことはないでしょうか?産婦人科は社会や家庭の中で中心的な役割を担う年代の患者さんが多く、配慮が必要な場面が多くあるかと思います。

当院で実施している、早期の社会復帰や術後疼痛の軽減を実現できる、vNOTES(vaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery)をご紹介します。

NOTES(Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery)とは、人体に存在する穴(口、鼻、肛門など)を利用して手術を行う方法です。vNOTESは、その中でも腔腔を利用した手術であり、お腹に傷ができないというメリットがあります。

図1 腹壁創部の比較



開腹手術

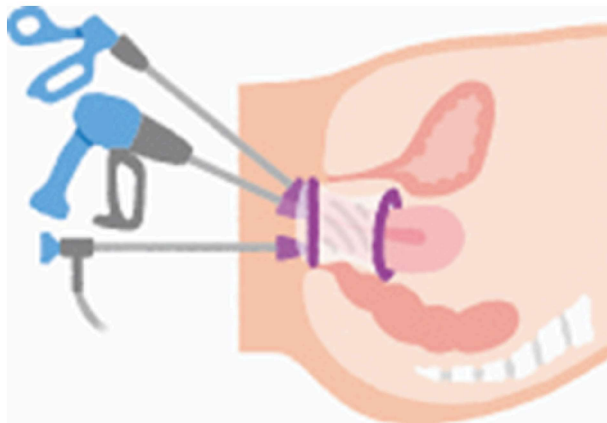
腹腔鏡手術

ロボット支援下手術

vNOTES

Appliedmedical Japan株式会社より提供

図2 vNOTESイメージ



Appliedmedical Japan株式会社より提供

お腹に傷ができないということは、整容面のみならず術後疼痛を減少させ、創部感染や臍ヘルニアを予防するため、結果的に早期の社会復帰、医療費の削減につながり、社会全体に貢献すると考えています。

次に、術中画像を供覧いたします。

1. 腔式に膀胱子宮窩腹膜とダグラス窩腹膜を切開します。

図3 子宮腔部を把持しているところ

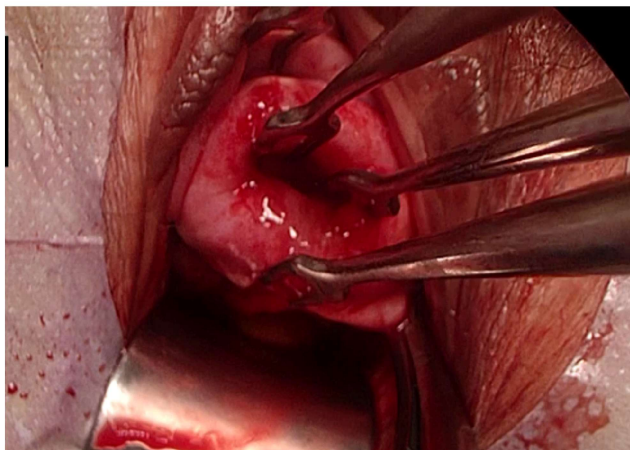
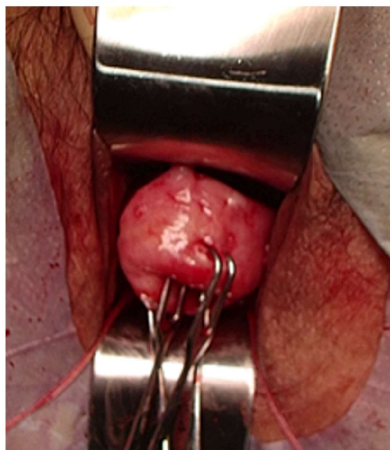


図4 腔鉤を挿入



2. Gel POINT™ (Appliedmedical Japan) を装着します。

図5 A Alexis O リトラクターを腔腔を通じて腹腔内へ挿入

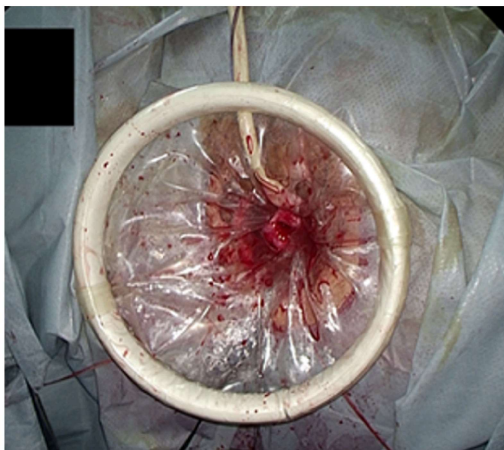


図5 B GelSeal キャップを装着

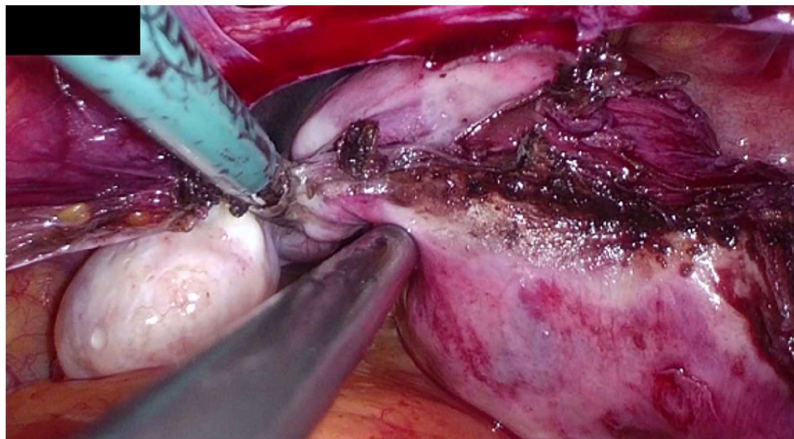


3. カメラや鉗子を挿入し、仙骨子宮靱帯を処理し、子宮動脈を含む子宮傍組織、上部靱帯を凝固切開します。

図6 A 子宮傍組織を処理



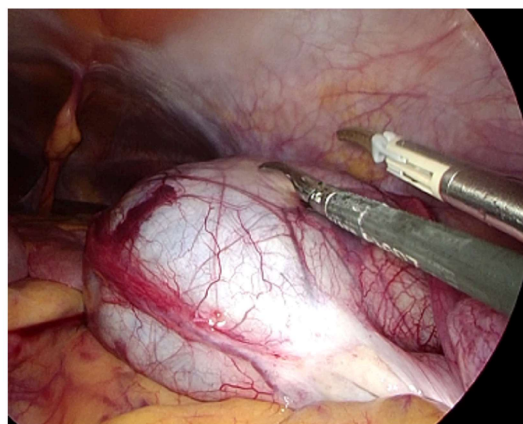
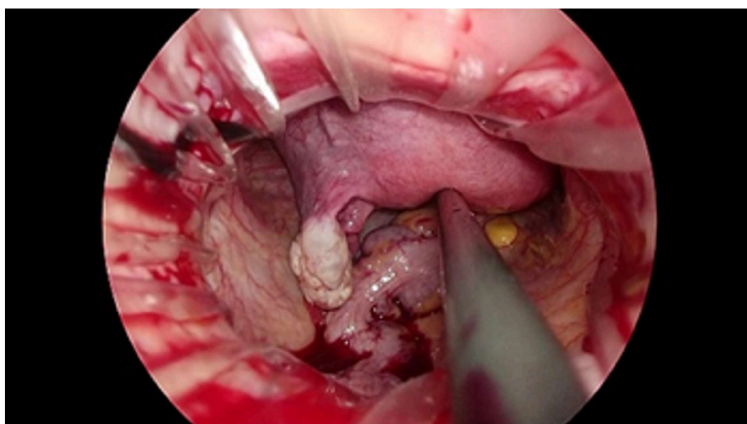
図6 B 卵巢固有靱帯を切除



この症例は卵巢を温存しましたが、骨盤漏斗靱帯を切断すれば卵巢摘出も可能です。

卵巢腫瘍に対する手術では、ダグラス窩のみを開放し、ダグラス窩にGel POINT™を挿入して卵巢を操作します。

図7 ダグラス窩からカメラを挿入し、卵巢腫瘍を確認しているところ



4. 検体を摘出し、腔式に腹膜を縫合し、腔壁を縫合して手術を終了します。

患者さんの希望に合わせて術後1～3日目に退院としています。

復職のタイミングは退院後数日～約2週間で、患者さんのニーズに合わせて選択していただいています。

vNOTESとカメラを用いない腔式子宮全摘出術との大きな違いは、卵管や卵巢の摘出も可能である点、大きな子宮筋腫にも対応可能である点、子宮脱でなくても手術操作可能である点です。

また、vNOTESは骨盤臓器脱にも有用であり、腔断端と仙骨子宮靱帯の縫合や腔壁形成・腔閉鎖も同時にできるため、メッシュを挿入する仙骨腔固定術に適さない方への選択肢となっています。

卵巢腫瘍単独の手術も可能であるため、これまでは腹壁からアプローチしていた卵巢腫瘍摘出術や付属器摘出術も多くの症例でvNOTESが可能です。腹部に傷が残らず早期の社会復帰が可能な面から、この手術を希望する患者さんが多くいらっしゃいます。

一方で、ダグラス窩が閉鎖している方や腔壁が狭い方には、従来通りの腹腔鏡手術を推奨しています。

治療の選択肢

低侵襲手術としては、vNOTESの他、ダビンチXiによるロボット支援下手術や腹腔鏡手術が可能です。

当院はもともと泌尿器科でロボット手術が盛んであり、婦人科領域でロボット手術が保険適応となった2019年にはいち早く産婦人科でもダビンチによる手術を導入しました。病院全体としてロボット手術に慣れているため安全確実に手術が可能です。当科でもこれまでのロボット手術の累積件数は200件を超え、悪性腫瘍に対しても60件を超える経験があります。

骨盤・傍大動脈リンパ節郭清といった侵襲の大きい手技に関しても腹腔鏡手術を希望する方が選択できるように、保険適応外の疾患に対しては自費診療で対応する体制を整えています。

表1 当院での手術の選択肢

	ロボット	腹腔鏡	vNOTES	開腹
卵巣嚢腫	—	◎	◎	○
子宮筋腫	○	○	○	○
子宮体がん	◎	○	—	○
子宮頸がん	—	◎	—	○
卵巣がん	—	○	—	◎
骨盤臓器脱	◎	○	◎	○

当院の多岐にわたる取り組み

当院での悪性腫瘍診療に関する長所の一つに、腫瘍内科の医師と協力して化学療法を実施できる点があります。がんゲノム検査に関しても産婦人科部長の松永医師を中心に実施体制が整っています。

悪性腫瘍は治療後の生活も大切であると考えています。就労や育児、家庭生活における役割といった社会面、さらに整容面や心理面にも配慮するように心がけています。

周産期領域ではNIPT(新型出生前診断)、計画無痛分娩、26週から対応可能な周産期体制、夜間休日の対応のため他地域に帰省分娩予定の妊婦さんにも一度受診していただき当院でカルテを作成する制度などを整えています。また、妊娠初診の方はインターネットでの予約取得が可能となりました。

経会陰超音波での分娩進行の客観的評価、ヘルスケア部部長の茶木医師による妊娠授乳関連骨粗しょう症予防の取り組みなど、ここでは紹介しきれない話題が多くありますので、ぜひ当院の病診連携の会にお越し下さい。

地域の先生方の御紹介をお待ちしています

本日はvNOTESを中心に紹介しました。

産婦人科医師9名のうち8名が女性医師であることも当院の特徴の一つです。プロフェッショナルの仕事に性差はないはずですが、患者さんにとって女性医師による診療のニーズは根強く存在しています。特に当院の女性医師は婦人科腫瘍専門医、婦人科内視鏡技術認定医、ロボット手術認定医、周産期専門医、女性ヘルスケア専門医と広い専門分野をカバーしており、技術、知識ともに高い水準を保っています。

悪性腫瘍を含む高度な低侵襲手術に関しては、初診は基本的に木曜日を推奨していますが、チーム制をとっているため何曜日でも対応可能です。手術は1〜2か月待ちの状態ですが、悪性腫瘍の方は緊急度に応じて早急に対応しています。紹介状をお持ちの方は予約外でも対応しますので、平日11時までに受診するようにお伝えいただき、ぜひ当院へ紹介をお願い申し上げます。

妊婦検診のセミオープンシステムを初め、当院の産婦人科は地域の先生方に支えられて成り立っています。今後とも円滑な連携をとり、双方向の紹介を継続したくお願い申し上げます。



大井 由佳(おおい ゆか)
婦人科 部長
■卒業年次
平成15年

■専門分野

婦人科腫瘍

■学会専門医・認定医

日本産科婦人科学会専門医・指導医

日本産科婦人科内視鏡技術認定医(腹腔鏡)

日本産科婦人科内視鏡技術認定医(ロボット)

日本内視鏡外科学会技術認定医(婦人科領域)

婦人科腫瘍専門医・指導医

がん治療認定医

産婦人科遺伝診療学会認定医

医学博士

ダヴィンチ手術 certificate

お問い合わせ先



独立行政法人 労働者健康安全機構 横浜労災病院 地域医療連携室

TEL:045-474-8111 平日 8時15分～17時00分

FAX:045-474-8323

ホームページ:<https://yokohamah.johas.go.jp>